

ルートは推測

2:20 コンパスの角度が違い議論の間にパーティがバラけた。
3:15 時間が経過するばかりでまずいとSLの後を追った。
4:30 ロープを出す所が多くなり、時間がかかる。
崖に遭遇。
6:00 下降をあきらめ、より安全な場所への登り返しも不可能と判断し、ビバークを決意する。

崖で動けずビバーク

急でザイルを出す

翌日

AM6:45～富山県消防防災ヘリにより全員ピックアップされ、ゴンドラリフト駐車場へ搬送される。

大品山

◆遭難に至った原因・反省点

I. 今度の山行目的が読図訓練であったにもかかわらず、読図がおろそかであった。

- ・ 1229m標高点を視認していながら、過去の経験からくる過信と油断(慣れ)からその後の現在位置と進むべき方角の確認を全員でやらなかった。
- ・ 1229mでのルート選定で先行したS LとS Pの意見がわかれたとき、全員が地図を広げ、全員で地図と現在地の実際を検証すべきであった。詳細に検討すれば全員が理解し得たことである。

II. リーダーは全メンバーの安全への配慮（危険回避への判断力）が足りなかった。

- ・ 斜面が急でロープを使わないとメンバーが崩壊地へ転落するかもしれない状況になっても下降を続けたことはリーダーのメンバーに対する安全の配慮が足りなかった。もっと早い時点で行動を停止してメンバー全員を集めて、地図を広げ現在地の確認と以後の行動を検討すべきであった。

（HP参照）

残雪期の山。ルートが分かりづらいので慎重な行動をとらなければならないが、チームがばらけたところが一番の反省ではないだろうか？